



2019年12月9日

各 位

会社名 株式会社メドレックス  
代表者名 代表取締役社長 松村 米 浩  
(コード番号：4586 東証マザーズ)  
問合せ先 経営管理部長 藤岡 健  
(TEL. 03-3664-9665)

### 日本免疫学会学術集会における発表のお知らせ

2019年12月11～13日に開催される第48回日本免疫学会学術集会において、当社と東京医科歯科大学が共同で実施した研究成果が発表されることになりましたのでお知らせいたします。

#### ◇第48回日本免疫学会学術集会 開催概要

会期：2019年12月11日(水)～13日(金)

会場：アクトシティ浜松

URL：<http://icongroup.co.jp/48immunology/>

#### ◇当社と東京医科歯科大学との共同での発表演題

“One of PD-1 ligand, PD-L2 induced on Langerhans cells augments cutaneous T cell-mediated immune responses”

(ランゲルハンス細胞上に発現するPD-1リガンドの一つであるPD-L2は、皮膚T細胞免疫反応を増強させる)

PD-L2 (B7-DC)は免疫チェックポイント受容体PD-1のリガンドの一つであるが、T細胞免疫応答におけるその機能は明確ではない。東京医科歯科大学・分子免疫学分野では皮膚樹状細胞上のCD86を標的としたsiRNA局所塗布が、標的分子の遺伝子発現を抑制することで、接触過敏応答を抑制できることを報告してきた。今回は、siRNA局所塗布による遺伝子発現制御という手段を利用して、皮膚樹状細胞に発現誘導されるPD-L2の機能を解析した。接触過敏モデル惹起相におけるPD-L2 siRNA塗布は、皮膚組織の初期の炎症性サイトカイン発現および皮膚から所属リンパ節への抗原捕捉樹状細胞の遊走を抑制することで、接触過敏応答を軽減した。惹起6時間後の皮膚の免疫組織染色では、PD-L2発現誘導が表皮内に認められ、皮膚組織の単離細胞を用いたフローサイトメトリー解析からは、PD-L1 siRNA塗布がCD326陽性の皮膚ランゲルハンス細胞上のPD-L2の発現を抑制していることが示された。PD-L2阻害抗体の局所投与もPD-L2 siRNA塗布と同様の結果を示した。以上から、PD-L2 siRNA塗布は、ランゲルハンス細胞のPD-L2発現を抑制することで、接触過敏症を改善したと考えられた。PD-L1 siRNAの抑制効果は、感作T細胞の局所皮膚移入において、さらにはPD-1/PD-L1欠損マウスにおいても認められることから、この抑制機構はPD-1非依存性で局所メモリーT細胞依存性であることが示された。本結果から、皮膚ランゲルハンス細胞上のPD-L2は抑制分子ではなく、共刺激分子として働いている可能性が示唆された。

以 上